

事業実施報告

開催日	令和5年11月4日(土)		
事業名	R5テンパーク・ファミリークラブ～薪割編～		
開催場所	岩手山青少年交流の家	参加人数	17家族 58名
対象	小学生の子どもとその保護者		
関係機関名	滝沢里山研究会 岩手県環境アドバイザー		

状況報告 (事業の内容・事業の成果と課題について記載)

〔事業の内容〕

親子で薪割体験や火おこし体験を通して、家族の絆を深めるとともに、森林の利活用について理解し、循環型社会を形成しようという意識を育むことをねらいとして、日帰り事業を企画した。

薪割体験から焚き火、焼き芋・焼きリンゴ・じゃがバター等の焚き火料理、花炭づくりを親子で体験した。さらに、森林教育の専門家から森を核とした資源・エネルギーの循環について講話をいただいた。また、所の危険木をチェーンソーで伐倒する森林整備を専門家と職員で実演し、見学する場面を設けた。

〔成果〕

・所の森林に囲まれた環境を活かし、普段なかなか知る機会のない林業、体験する機会が少ない薪割や火おこし、焚き火を活動内容としたことで、20家族の定員に対し46家族128名の応募を得た。

・当日の寒冷前線通過に伴う激しい雷雨のため、キャンセルもあったが、講師・スタッフで臨機応変に対応し、予定していた主な活動については安全に実施することができた。参加者からも「悪天候でしたが、ほぼ予定通りのプログラムを体験できたのがよかった」「予想外の悪天候にもかかわらず、スムーズな進行・誘導がなされており非常によかった」という評価を得た。

・森林講話を専門の方にお願ひし、テーマについて事前打ち合わせを行った。さらに、講師には、ボランティアを活かしてペープサートのように炭素・水素・酸素の循環についてわかりやすく解説していただいた。また、活動の際にも短い解説をしながら、講話と結びつけながら進行していただいた。参加者からは、「林業やC・H・Oの循環を学べるとは思わなかった。勉強になった」との感想が寄せられた。森林ESDについてわかりやすく具体的に指導できる講師とつながりを持つことができた。

・危険木の伐倒という課題を、教育事業を通じて講師陣に解説付きで実演していただいた。所の技能補佐員にも事業運営に入ってもらい、玉切りの工程まで実施できた。参加者からは、「チェーンソーでの実演は迫力があってすごかった」「木の切り倒しの様子見学など新たな体験をすることができてよかった」などの声が寄せられた。

・焚き火・焼き芋等の焚き火料理については「マッチや火おこしは、普段なかなかできない体験なのでよかった」「ファイヤースターターで着火でき、焚き火も上手にできたので大満足」などの声が聞かれた。

・閉会式では、子どもも保護者も挙手して感想を発表して交流できた。「火を起こしたり、薪割をしたり、ふだんできない体験をさせられるこの環境があることが大切で、ありがたかった」という保護者の声があった。各家庭だけでは体験できない内容を安全に提供できる環境を整備していくのがこの施設の価値づけだと考える。

・事業後のアンケートでは、事業全体に関する満足度は、満足88.2%、やや満足11.8%肯定的回答100%の評価を得ることができた。また、事業の継続、複数回の実施を望む声も寄せられた。また受講動機として「内容に興味があった」「100%「半日開催だから」29.4%などが挙げられた。今後の事業企画に活かしていきたい。

〔課題〕

・雨天対応の野外炊事場であり、雨天時も決行することとしていたため、荒天時活動場所を確保していなかった。講師陣の対応力とスタッフボランティアのマンパワーで臨機応変に対応したが、主催事業については、荒天時の副案と活動場所を押さえておく必要がある。

・木材伐倒という危険作業の見学を設定し、距離について保つよう指示を出したが、万が一を考え、より厳しい基準で安全確保をするよう運営側で指示をする必要がある。

・内容として、所の特色を生かした、季節にあった内容だったが、応募数に応えることができなかったため、次年度以降の実施計画を検討していきたい。

状況写真



「森の循環についての講話」



「薪割台の使い方体験」



「焚き火料理の準備をする親子」



「親子で薪割体験」



「マッチと麻紐で火おこし」



「焚き火で暖をとりつつ花炭づくり」